

輝く尊像の数々

錦戸新観師の死去を悼む

佛師・錦戸新観師が、四月十六日、八十八年の生涯を閉じられました。善光寺には、錦戸師が制作された数々の尊像をお祀りしてあり、衷心よりお悔やみ申し上げます。

黒田住職は寺を持ったときから、いつかきつとご高名の錦戸師に、善光寺のために佛像を制作して戴こうと胸深く決めていました。十八年目になってやっとその念願がかない、昭和六十二年、不動尊脇侍の制吒迦、矜羯羅の二童子を迎えることができました。その後平成二年に不

動殿の本尊・大日如来像を、同三年には大日如来の脇侍として阿弥陀如来像と薬師如来像を勸請し、五月に開眼法要が行われました。

「精進を樂とし、精進を永遠の命とす」を座右銘として彫り続けたいと語って「成寿」第18巻参照）おられた錦戸師。発願から実に四十七年の歳月を要したという七観音の制作が成就し、記念として平成六年に、六十余年に亘る彫刻のあとを振り返る作品集も刊行されています。

心からご冥福をお祈りいたします。



ありし日の錦戸先生(平成3年)



◀ 十一面観世音菩薩

平成三年五月
善光寺客間にて

制吒迦童子・矜羯羅童子



- 善光寺収蔵作品（文中以外）
- 大日如来三尊仏
 - 聖徳太子坐像
 - 法華経レリーフ
 - 千手観世音菩薩